

# 平成18年 第2回定例町議会

## 議会ニュース



平成18年第2回定例町議会が6月22日招集され、報告9件、議案9件が審議され、6月26日閉会しました。そのあらましについてお知らせします。

### 町政報告 (要約)

#### はじめに

国内の経済情勢は、緩やかな回復局面を迎えていると言われるものの、北海道においては、地域経済活力の低下という依然として厳しい状況が続いており、道税収入の減少や道財政の悪化に伴い、本年度の公共事業や市町村への多くの支援施策に深刻な影響を及ぼしている状況にあります。

一方、国の地方財源問題は、

昨年までの三位一体改革により、地方への税源移譲が行われた反面、地方交付税も大幅な削減が行われたにもかかわらず、現在経済財政諮問会議などでは、地方交付税制度の改廃や更なる大幅な削減を図る議論が本格化しており、市町村への深刻な影響が憂慮されております。

こうした情勢を踏まえて、4月26日北海道町村会第60回定期総会が開催され、地方分権の推進と町村税財政基盤の確立など11項目からなる大会決議がなされ、国への強力な要望運動を展開することとしたところです。

#### 道立余別診療所の廃止問題 道知事へ存続要望書提出

道は、平成9年度に策定した「道立の医療機関の再編整備指針」に基づき、すでに道内52か所の道立診療所の廃止を了し、残る余別診療所など11か所についても順次廃止の方向で検討中である旨、5月30日に北海道保健福祉部医療政策課から担当主幹が来町し、昨年7月に続いて再度の事情説明がありました。その内容は、道立余別診療所にあつては、特に、経営の採算

#### 平成17年度各会計決算(概況)

10億円超えた累積赤字

町財政に赤信号が点灯!

※うち一般会計からの繰入金

332万4千円(2%)

#### ◆一般会計

歳入 26億9,513万4千円

歳出 26億956万4千円

※うち特別会計への繰出金

4億2,734万1千円(16%)

差引 8,557万円

#### ◆老人保健特別会計

歳入歳出 6億428万9千円

※うち一般会計からの繰入金

7,223万円(12%)

#### ◆簡易水道事業特別会計

歳入 1億6,284万1千円

※うち一般会計からの繰入金

1億610万8千円(65%)

歳出 2億6,908万2千円

#### ◆国民健康保険事業特別会計

歳入 1億624万1千円

#### ○事業勘定

歳入 5億9千円

※うち一般会計からの繰入金

6,948万1千円(14%)

歳出 6億5,374万3千円

#### ◆産業交流雇用対策推進事業特別会計

歳入歳出 2億1,533万5千円

差引 翌年度繰上充用金

1億5,373万4千円

○直診勘定

歳入 1億5,639万6千円

差引 翌年度繰上充用金

7億7,577万1千円

#### ◆下水道事業特別会計

歳入 8,542万1千円

※うち一般会計からの繰入金

1,429万円(17%)

歳出 9,605万1千円

#### ◆介護保険事業特別会計

歳入 2億6,378万6千円

※うち一般会計からの繰入金

4,242万2千円(16%)

歳出 2億5,693万3千円

差引 685万3千円

#### ◆介護福祉サービス事業特別会計

歳入歳出 5,693万5千円

※うち一般会計からの繰入金

3,316万5千円(58%)

歳入歳出 2億1,533万5千円

※うち一般会計からの繰入金

8,632万1千円(40%)

占める割合

(%)は各会計の歳入又は歳出に

占める割合

占める割合

占める割合

占める割合

占める割合

占める割合



性が乏しく多額の赤字が累増し、具体的な改善方策も見い出さずことが困難な状況が続いている実情にあることから、道の財政がひっ迫している現状の下で、平成19年度以降も引き続き存続することは極めて困難な状況にあることについて理解を求めるといふものです。

当該診療所が果たしてきた歴史的役割りの経緯と本地域の特殊な立地条件や交通事情を考慮し、平成19年度以降の引き続きの存続について特別な配慮と再考を重ねて要請しましたが、6月6日、積丹町自治会等連合会（余別支部長など関係自治会長3名と共に、北海道保健福祉部医療政策課並びに後志支庁長を訪れ、北海道知事宛の存続を求めるとの要望書を持参し陳情を行いました。

また、このことは、住民の地域医療に係る重要な課題であることから、今後、道主催の地域住民説明会の開催など、対応に万全を尽くしていただくよう重ねて要請したいと考えております。

### 今冬の雪害被害

#### 国等へ財政支援求め陳情

記録的な大雪による冬期間の除排雪対策が終了し、雪解けが進むにつれて、町内各地区の道路や自然公園など様々な公共施設の雪害被害の著しい状況が判明し、その対策に苦慮している状況です。

こうした被害状況は、後志管内全域に及んでおり、後志町村会の取りまとめによる被害状況は、農業関係被害等を含めて総額約18億8,900万円に達し、うち当町の公共施設被害は、約6,700万円と推計しております。

こうした状況から、後志町村会では、6月6日に、この冬の新たな雪害対策に伴う国及び道への特別な財政支援措置を求めるとの陳情活動を開始したところであります。

当町においては、厳しい財政事情の下、その財源の捻出が極めて困難な状況にあることから、国・道の災害対策支援の可能性や被害箇所の住民生活への安全性や緊急性などを考慮検討しながら対応に努めているところであります。

#### 各種基金総残高

3億9,000万円

#### 各種地方債総残高

61億4,000万円

#### 一時借入金（一年間の全会計累計総額）

24億4,000万円

#### 支払利子総額（一時借入金含）

288万4千円

### 各会計決算収支見込みに見る当町の財政状況

平成17年度末での累積赤字である翌年度繰上充用金総額が10億4,600万円（前年度比約1億1,800万円の増）を超えるものと見込まれ、危機的な度を増している状況にあります。

財源の確保と歳出削減対策という歳入・歳出両面にわたる改革に着手したところです。

このような状況から、国保・直診勘定や簡易水道の特別会計については、一般会計からの繰出金を抑制するため、平成18年度予算から、国保診療所体制の抜本的な見直し、国保税率の見直し、使用料の見直しなど歳入

と考えるしております。こうした平成17年度の決算見込みから見た町の財政運営の極めて厳しい現状については、更に町行財政改革推進委員会並びに町民への透明性のある、詳しく分かりやすい状況説明に努めるとともに、引き続きあらゆる機会を通じて理解を深めていただくことに努力してまいります。

### 水中展望船指定管理者条例制定

#### 選定委員会委員6名を任命

積丹町公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例第6条の規定に基づき、町の附属機関として設置が義務づけられている「積丹町公の施設に係る指定管理者選定委員会委員」

委員構成は、町内の公共的団体の代表者等が4名、学識経験者は、企業会計の実務に精通している金融機関社員など、町外者2名の計6名です。

の選任について、6名の方々に就任をお願いし、6月1日付けで任命しました。

本委員会については、個々の公の施設の指定管理者制度への移行や指定管理者の公募・非公募の適合性、応募者等から提出された事業計画書の審査、指定管理者候補者の選定などにつ

て広く審議を行うほか、町への必要な提言をいただくなど、本制度の導入活用にあたっての行政手続きの公平性と透明性の確保の観点から、極めて重要な役割を担っていただく機関です。

すでに6月5日から委員会が開催されているところです。

なお、「海底探勝船」については、指定管理者制度への移行のための新たな個別条例の制定を、また、「物産品販売施設」については、岬の湯しゃこたんから分離し、町有財産の普通財産への分類替えによる貸付処分に移行するための現行条例の一部改正を、それぞれ指定管理者選定委員会の答申を得て、本議会に提出いたしました。

◆積丹町指定管理者選定委員会

委員長

委員

高野 善作さん (余市町)

同職務代理

佐藤 義美さん (日司町)

委員

池田 敬一さん (余市町)

的場 無縫さん (美国町)

佐藤 晃さん (美国町)

佐藤 弘美さん (野塚町)

■主要計画事業の補正予算  
2事業に財政支援が内定

第1回定例議会において報告した年度途中での補正予算措置予定事業のうち、未措置であった次の事業2件について、それぞれ国・道等からの補助金等の財政支援措置の内定を得ました。

一、製氷・貯氷施設整備事業 (水産業費)

二、地域新エネルギービジョン策定事業 (企画費)

国及び道の財政事情が一段と厳しい状況下で、本町の懸案事業の重要性についてご理解をいただき、昨年来の当町の採択要望運動について、関係機関の格別のご配慮をいただきましたことに対しまして、深く感謝を申し上げます。

■「町長室出前懇談会」開催状況

継続して説明に努める

「開かれた行政運営」をめざして平成16年秋から実施しております「町長室出前懇談会」を、4月10日から5月9日までの10日間、町内10地区で開催し、延べ194名の町民の方々の出席をいただきました。また、平成16年から3回の出席者総延べ人数488名の方々と、身近に懇

談ができたこととなります。

今回は、平成18年度予算を通じた町の財政状況や行政改革の実施状況について、各地区に出向いて可能な限り、わかりやすい資料づくりと、わかりやすい説明に努めました。

年を追って、町の説明資料を見た財政状況の疑問点についての質問や貴重なご意見を数多くいただき、開かれた行政運営の推進の重要性を実感したところ

です。ひつ迫した財政事情や多くの困難な課題を抱える今日こそ、こうした機会を持つことが大切であるとの認識に立って、今後も、形式や時期にこだわらず自ら出席することを基本に、続けてまいりたいと考えております。

企画課関係

地域新エネルギービジョン策定事業

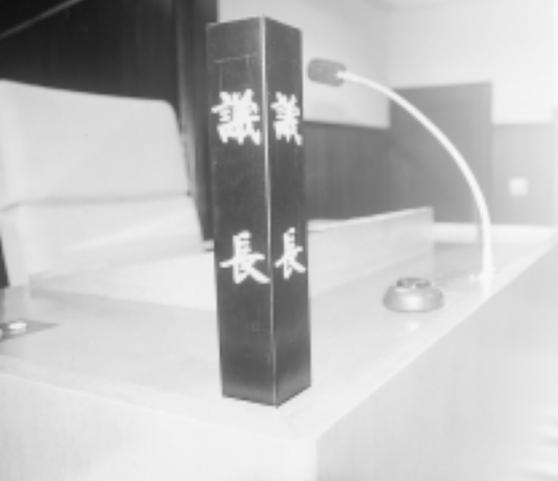
本事業は、世界的な環境の時代の到来を背景に、地域に潜在する水産系・森林系など様々なエネルギー資源の次世代的・将来的な利用の可能性に関する基礎的な調査研究や実践的な導入

手法について検討をするもので

す。また、この事業は、国の独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構が、全国各地の「環境」や「新エネルギー」の将来的ゆくえに関心が高い自治体を選定し、必要な財政支援の下で行われるものです。

事業の実施体制については、産学官の学識経験者等による、「エネルギービジョン策定委員会」を設置することが要件とされており、様々な分野の関係機関の連携を取りながら専門的策定作業の一部は調査機関に委託するなどして、事業の実施を行うものです。

また、この新たな取り組みを通じて、様々な分野の多くの産学官の専門家の方々が来町することから、本町の地形や立地、資源などの条件を介して、新しいエネルギー資源の発見や産学官による新たな研究テーマが生まれるなど、将来の本町の地域振興に役立つ機会となることを期待しているところです。



## 後志総合開発運動等の動向

5月10日、後志総合開発期成会定期総会において、平成19年度後志地域開発予算市町村事業の重点要望事項の決議がなされ、5月23日から6月1日までの5日間にわたり管内の市町村長及び議会議長によって、道内並びに国の関係機関への要望運動が実施されたところです。

当町に係る要望事項は、地籍調査、漁港漁場、漁港海岸、漁業生産基盤、道路、河川整備など合計9件です。

また、これと併行して5月23日には、北海道新幹線建設促進後志・小樽期成会並びに、北海道横断自動車道黒松内・小樽間建設促進期成会の総会が開催され、更に、5月29日には、国道229号余市・岩内・島牧間整備促進期成会総会が開催されたところです。

特に、後志管内における道路交通網の整備促進は、様々な課題を抱える立地条件下で、地域の将来の振興発展を展望する大きな要因の一つとして長年にわたり懸案とされてきた経緯から、これらの事業の早期実現・早期

整備について決議がなされ、今後とも強力に関係機関へ要望運動を行うこととしております。

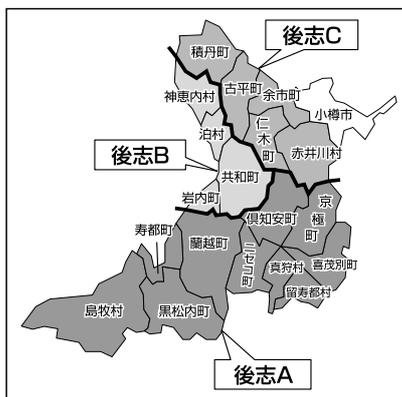
## 市町村合併関係の動向

北海道が策定作業を進めている「北海道市町村合併推進構想(案)」は、2月14日の報道等公表に引き続き、6月2日開催された第5回北海道市町村合併推進審議会の審議を経て報道等により公表されました。

この組み合わせは、住民の日常生活圏や産業経済圏、行政活動区域などの指標を統計的に解析し、最少人口を3万人程度、役場間の移動時間を80分以内とする条件でグループ分けし、市町村の結びつきの状況を樹形図として段階的に表したもので、この結果を直ちに法に基づく道の合併勧告の組み合わせにするというものではなく、今後の市町村の自主的な合併促進論議に役立てる指針と位置付けております。

各町村共、今、ひっ迫している財政運営の危機をどう克服するかに最大の焦点があり、好転させる要因を見い出せるかどうか思案している状況が続いてい

北海道市町村合併推進審議会に基づく  
後志支庁管内市町村組合せ(案)



組合せ	人口	面積	最長通勤距離	大層
区分	(H17国調)	(㎡)	時間	時間
A	島牧村	1,9974	37.26	116分
	寿都町	3,744	95.36	
	黒松内町	3,457	345.47	島牧村
	蘭越町	5,803	449.68	喜茂別町
	二セコ町	4,668	197.13	
	真狩村	2,354	114.43	
	留寿都村	2,165	119.92	
	喜茂別町	2,708	189.51	
	京極町	3,583	231.61	
	倶知安町	16,174	261.24	
計	10町村	46,653	2,441.61	
B	共和町	7,112	304,906	35分
	岩内町	15,742	70.64	共和町
	泊村	2,185	82.35	神恵内村
	神恵内村	1,319	147.71	
計	4町村	26,358	605.66	
C	積丹町	2,860	238.20	52分
	古平町	4,021	188.41	積丹町
	仁木町	3,967	167.93	赤井川村
	余市町	22,730	140.60	
	赤井川村	1,311	280.11	
計	5町村	34,889	1,015.25	

るものと推測しております。従いまして、合併新法下においては、旧法下の合併協議の例とは異なり、関係町村のより透明性のある財政の状況についての相互分析・相互評価が合併論議・合併協議の最大の調整課題となることは避けられない、一層厳しい協議環境になると申し上げざるを得ません。

今後においても、関係町村の動向について積極的に町民への情報提供に努めるとともに、市町村合併論議と行財政改革論議が表裏一体であることの重要性について、あらゆる機会を通じ

て訴えてまいりたいと考えております。

## 後志広域連合準備委員会の動向

「後志広域連合準備委員会」は1月24日に設立され、平成19年4月からの広域連合設立に向けた、準備を開始したところであります。後志支庁管内に事務局を置き、蘭越町、倶知安町、共和町、黒松内町、赤井川村からそれぞれ1名の職員が派遣され、5名体制で4月からスタートしました。

事務局では、広域で共同処理する事務13項目について、後志

支庁の全面的な協力をいただき課題・問題点をとりまとめ、9つの専門部会（総務・税務・国保老人保健・介護保険・環境衛生・消防・学校給食・教育委員会・農業委員会）を設置し、専門的に協議、調整を図りながら事務作業を進めていくことが幹事会で決定されました。

また、来年の4月発足に向けては、スケジュール的に10月までに広域事務処理の調整を図らなければならないことから、本年度については重点的に次の5項目の事務を選定し事務作業を進めていくこととされておりま

- 一 税の徴収事務
- 二 国民健康保険事務
- 三 介護保険事務
- 四 老人保健医療事務
- 五 消防及び救急事務

これらの事務と併行して他の事務についても、中・長期的に調整が図られることとなっております。

また、来年4月の「広域連合」設立に向けては、規約を定め議会の議決を要することや、広域連合の議会議員及び連合長の選挙の実施などがあり、今後にお

いては規約、広域計画の作成、議員定数、選出方法などについても検討作業を進めることとなっております。

### 行財政改革の推進状況

町行財政改革推進委員会は、既に12回の委員会を開催してまいりました。現在までに答申を受けた項目は13件、町側から現状及び課題等の説明を了した項目は26件で、引き続き急がれる多くの改革検討項目について、順次、町からの資料提出を求め協議を重ねることとしております。

検討の状況については、議会特別委員会あるいは町民への状況説明や情報の提供に努めてまいります。

### 町総合計画（実施計画）進行状況

第4次積丹町総合計画は、平成14年度策定から5年次目を迎えておりますが、平成17年度から平成19年度までの中期3か年計画事業に係る実績状況は、対計画件数で39件、73・58%、対事業費予算化率で14億4,700万円、28・90%です。

### 地域間交流推進事業

6月9日、姉妹町であります高知県香美市（旧土佐山田町）から、門脇市長、西村市議会議長、山本副議長（旧物部村議長）、石川議員（旧香北町議長）、岡本姉妹都市交流推進協議会会長ほか37名が来町し、当町からは岩本議長及び議員各位や佐藤勝次町地域間交流推進協議会会長のほか町内産業経済団体、婦人会などから代表者方々のご参加をいただき、気候風土の違うお互いの町の近況について意見交換し交流を深めました。

また、恒例となっております「第15回YOSAKOIソーラン祭り」では、6月9日町総合文



化センターを会場に積丹前夜祭が催され、山田太鼓の演奏などのプログラムに、満席に近い観客と同市から来町した42名の方々が、北と南の交流を深め、札幌会場では唯一、第1回から連続出場する当町と同市との合同チーム86名が各会場で踊りを披露しました。

### 町功労者の叙勲

5月31日、美国町在任の元町議会議員澤田松男氏に旭日双光章が、内閣総理大臣より授与され、大嶋後志副支庁長より伝達されました。

澤田松男氏は、昭和28年6月、旧美国町議会議員に就任以来、昭和31年の町村合併による積丹町議会議員として8期32年間にわたりご活躍されました。

また、余別町在任の元北後志消防組合積丹消防団副団長三浦繁敏氏に瑞寶単光章が内閣総理大臣より授与され、6月8日、益子町長より伝達されました。

三浦繁敏氏は、昭和32年4月積丹消防団員を拝命以来、48年間にわたり消防行政に活躍され、その間、平成5年からは副団長として、豊富な経験と実践をも



つて地域の民生安定に精励されました。

当町の自治の進展に、長年にわたりご尽力をいただいた両氏のご功績を称え、そのご労苦に対し、改めて衷心より敬意と感謝を申し上げ、町民の皆様とともに心からお喜びを申し上げます。

## 住民福祉課関係

### 住民健診事業の実施状況

本年度の短期人間ドック350名の計画に対し、5月末現在で140名が終了、また、乳ガン検診38名、子宮ガン検診31名が受診し、全体で前年同期と比較して46名、約23%減少している状況にあります。これは、費用負担が少なく町内で受診できる総合健康診査についての啓発効果と乳ガン、子宮ガン検診が隔年になったためと推測しております。

医療費の抑制と、財政の健全化が国民的課題とされる今日、定期的な検診により疾病の早期発見、早期治療がますますその重要性を増していることから、引き続き受診率の向上と適切



な事後指導など、住民の健康管理意識の高揚、啓発に一層努めたいと考えております。

### 医療費等の動向

平成17年度の医療費は前年度と比較して、国民健康保険事業特別会計では一人当たりの医療費8,500円、約3・1%の減、老人保健特別会計では一人当たり7万9,400円、約10%の増という状況にあります。その主な要因は、高齢者の高額医療入院患者の増加によるものと考えております。

介護保険事業特別会計では、給付費が全体で729万9千円、約3・1%の増、居宅サービス2,051万4千円、約39・1%の増、施設サービスで1,32

1万5千円、約7・2%の減となっており、平成17年10月からの介護保険制度の改正が主な要因と考えられます。

介護サービス特別会計では、通所介護事業が延利用者数2,055人、約12・7%の増、高齢者自立支援関係委託事業が延利用者数5,108人、約4・4%の増という状況で、居宅支援関係事業費総体では、105万9千円、約2・8%の減となっており、その主な要因は、委託単価の見直しによるものと考えております。

## 商工観光課関係

### 春の観光施設の利用状況

ゴールデンウィークを含む4月、5月の観光客入込数が、前年対比微減と推計される状況下の各観光施設の利用状況は、「海底探勝船」が15%増の3,244人、「味処しゃこたん」が22%増の883人、「岬の湯しやこたん」は、ゴールデンウィーク期の利用状況は、4・9%の増でしたが、5月末現在では入浴者数2万3,505人(前年対比872人、3・6%の減)、

入館料等収入総額2,355万円(前年対比78万円、3・2%の減)という状況です。

### 自然公園施設等の雪害被害状況

各地区の自然公園施設等の雪害被害による施設補修については、雪解けとともに施設の点検見回りをを行い、急がれる箇所から対応に努めております。

特に、通行止めとなっておりました黄金岬遊歩道については、北海道所管の施設補修工事も終了し、6月6日から供用を開始しました。



## イベント関係事業

第15回YOSAKOIソーラ祭り開催期間中の6月10日、同組織委員会から参加要請を受けた積丹町鯉場音頭保存会が、商工会婦人部、美国婦人会などの協力をいただき、札幌市大通公園の特設会場で正調鯉場音頭を披露したほか、積丹観光協会では、同期中に特設会場に隣接する大通り6丁目で開催された北のフードパークに、ウニ井などの味覚名産品の出店を行うなど、積丹町のPRに努めたところです。

毎年開催しております「ドンと来い積丹味覚祭り」と「お神威ソーラン祭り」について、その後の関係者により検討を重ねた結果、「積丹ソーラン味覚祭り」と名称変更を行い、一本化によるイベントとして来る6月25日開催する運びとなりました。現在、実行委員及び関係者が一丸となり、鋭意準備に当たっているところです。

この新しい試みが、引き続き当町の観光PRや漁業・農業など広く地域の振興に寄与するイベントとして、その盛会を期待

しながら、長く育ててまいりました。ものです。

## ゴミの持ち帰り運動

厳しい町財政の下、「きれいな観光地づくり」と「海浜地等の清掃費用の財政負担」のあり方は長年の課題です。

これから本格的な観光シーズンを迎えるにあたり、きれいな町づくりの一環として、「ゴミの持ち帰り運動」を推進し、観光地としての環境美化に努めてまいりたいと考えております。

本年は、試行的に積丹町技能士会の協力をいただき、主要箇所に啓発用看板を設置するほか、特定箇所のゴミステーションの一時撤去の取り組みなどを予定しているところです。



## 積丹観光協会

### 観光振興功労者表彰

6月13日、札幌ロイヤルホテルにおいて、社団法人北海道観光連盟主催の平成18年度観光振興功労者表彰式が、高橋北海道知事及び岩崎北海道運輸局長など多数の来賓列席の中で行われ、積丹観光協会がこれまでの「食と観光」をテーマにしたイベントや観光シーズン延長化をめざした取り組みが高く評価され、全道7個人2団体の一つとして表彰を受けました。



厳しい環境が続く中、関係者の懸命のご努力に敬意を表しながら、今後のご活躍とご発展を願って止みません。

## 農林課関係

### 農作業の進捗状況

大雪に伴う農作業は、5月の好天に支えられ、カボチャ、馬鈴薯等の植え付けも概ね終え、ミニトマトの定植作業等に入つたところですが、例年に比べて約2週間程度の遅れであり、今後の順調な天候を願っているところです。

### 農協総代会(17報告・18計画)「食の安全・安心」一層推進

4月12日開催の新おたる農業協同組合総代会において、平成17年度業務報告及び平成18年度事業計画が承認されました。

昨年度の本町の農業生産状況は、畑作が夏場の高温に恵まれたことや栽培技術の向上等から単位収量の増量が図られながらも、全国的な野菜価格の低下、また、酪農畜産においては、牛乳の消費量の低迷などから生乳の減産という生産調整が始まるなど厳しい状況でしたが、農協取扱総生産額は、約5億6千万円、前年度比約5百万円の減少と報告されております。

また、本年度事業計画では、



「食の安全・安心」への取り組みの一環として、農薬・飼料添加物及び動物用医薬品等への規制措置であるポジティブリスト制度（食品への農薬等の残留基準の強化）の本年5月導入に向けて、全農産物の栽培履歴の作成や農薬飛散防止対策の実施などにより、消費者への安全な農畜産物の提供によるクリーン農業の更なる推進をめざすこととしております。

また、所得向上対策としては、ハウス施設の充実と早期出荷や継続的な地力増進（堆肥・客土）対策、消費者と密着した契約栽培の推進、営農コスト軽減対策等を進めることを基本とし、持続型農業生産基盤の確立、「安全・安心な農畜産物生産の確立と販売強化」などの継続実施を進め、積丹支所としても、「しゃこたん」ブランドの持続と意識の高揚のための農作業の共同化や販売体制の強化、コストの低減努力などから所得の向上を目指すことなどを基本方針としております。

### 厳しさを増す酪農

町営牧場については、雪解け

の遅れと低温が続いたことから、牧草の生育が遅れ、例年より約1か月遅い6月8日放牧開始としたところです。

放牧牛の安全確保と適切かつ充実した管理の徹底に努めてまいります。

一方、4月から3か年の生乳の減産という生産調整対策が始まり、当町の酪農家においては、目標数値の達成に向けた自助努力により、地域としては目標をクリアーしているものの生産額への影響は約5%の減収が予測されるなど、ますます厳しい経営を強いられる状況にあります。このことから、乳質改善対策の徹底と乳牛検定事業の更なる充実による品質の向上などの経営改善対策の向上強化に、地域をあげて取り組まなければならないものと痛感しております。

## 水産課関係

### 平成17年度の漁業生産実績

イカ、ホッケなどの主要魚種が前年度に比べて回復傾向にありながらも、依然として低迷が続いた状況で終漁し、また、ウニについては比較的出漁日数に



も恵まれ若干生産増となりましたが、総漁獲量では概ね前年度並の3,580トン、金額では13億4千万円（前年度比10%増）と、魚価では若干持ち直しの兆しが見えたものの、平年水準比較では減少となり、厳しい結果となりました。

また、本年春先の4月、5月の水揚状況を見ますと、ヤリイカ、コウナゴの漁獲が振るわなかったことに加えて魚価安の影響を受け、厳しい状況で推移しております。

注目のウニ漁は、美国地区では6月1日、積丹地区では6月8日から開禁されており、今年もウニの餌料となる海藻の繁茂状況が昨年と同様に良好なことから、今後の盛漁期に向けて順

調な水揚げとなることを期待しております。

### 資源増殖関係事業

北海道の第2期ニシンプロジェクト事業に連動し、平成16年度から実施しているニシン稚魚放流事業では、5月11日に美国漁港へ搬入した体長5cmの稚魚約7万尾を、平均7cmまで港内の生簀で中間育成し、更に養殖場で育成された稚魚8万尾の直接放流と合わせ、5月29日に美国漁港沖海域に放流を完了しました。

将来の地域の有用資源として活用できることを期待しております。

また、北海道が実施する漁場整備事業については、ヤリイカ産卵礁118基を神岬地区に、漁礁102基を余別沖合にそれぞれ設置が予定されております。

### 漁港整備事業

国の直轄漁港の美国漁港は、6月上旬に工事が発注され、北防波堤改良工事に着手し、余別漁港については、西護岸工事が7月上旬の発注予定の運びとなっております。

## 製氷・貯氷施設建設

(美国漁港)

東しゃこたん漁業協同組合が事業主体となり、平成18年度計画事業として採択要望してまいりました水産鮮度保持施設(製氷・貯氷施設)は、この度、国の交付金事業として採択され、北海道から助成措置についての内定通知を得ました。

計画事業の概要は、鉄骨造建物1棟、約423㎡及び機械設備等で、製氷能力日産25トン、貯氷能力70トンで、美国漁港南防波堤背後の漁港施設用地に建設しようとするものです。

本計画は、町の予算措置を経て実施設計に着手し、補助金の交付決定通知を得た後、概ね8

月中旬の工事着手、平成19年2月末の完成をめざして補助事業として一連の作業が進められることとなります。

本事業は、旧美国町漁業協同組合から老朽化著しい現有施設の改築の緊要性を引き継がれた懸案事業であり、美国漁港における最も重要な漁港機能施設の一つとして、漁獲物の鮮度保持の改善による漁業経営の安定向上と漁業の振興に果たす役割が大きく、その成果が期待されるところです。

東しゃこたん漁業協同組合との適切な連携のもとに、本補助事業の適切かつ円滑な推進に努めてまいりたいと考えております。

## 建設課関係

### 建設工事の発注状況

町道維持補修工事、多茂木地区職員住宅他給水工事等4件、総工事契約金額814万8千円です。

なお、6月中旬に、地籍調査事業委託業務及び水道量水器取替工事など3件の発注を予定しているほか、今後、他の計画事業

についても、逐次発注してまいります。

### 今冬の大雪に国の補助金

記録的な大雪の最終的な降雪量は、11・32m(前年度9・81m)、期間中の最大積雪深は、2・76m(前年度2・09m)と驚異的な数値を記録し、4月30日観測を終了しました。

また、これに伴う平成17年度町道除排雪費予算支出額は、約9,520万円(前年度8,600万円)に達したところです。

なお、国(国土交通省)の町道除排雪事業に対するこの冬の特例的な補助金は、3月31日に事業費(基礎額)1,300万円、補助率2分の1、補助金額650万円と交付決定され、後志管内における交付対象市町村は、北後志の余市町、仁木町、古平町を含む15市町村でした。

### 国道・道々事業

国道229号新西河トンネルに接続する幌内府橋の架け替え工事が6月上旬から着工することとなり、6月1日に地域住民及び関係者への工事計画説明会が行われました。



町としても、年内の完成と合せ、漁場に対する汚泥処理対策に万全を講じられるよう、小樽開発建設部に要請をしたところ

です。  
また、来岸・余別間の茅沼地区において防災事業として、亀裂の入っている危険箇所を岩切り工及び土留擁壁工事が引き続き施工中であり、平成19年1月完成の予定です。

道道野塚婦美線改良工事による日司町黒松内地区の岩切り工及び法面保護工事が4月から施工中であり、12月中の完成を目指しているところです。

